

<街頭募金> 「ともに力を合わせて活動する『仲間』であるボランティア」



ICAN 日本事務局  
宮澤 卓海  
～プロフィール～  
大学卒業後、2018年  
3月よりインターン

私は2018年3月から1年間日本事務局のインターンとして活動をしてきました。インターン開始直後にアイキャンのフィリピンスタディーツアーに参加した際、路上で生活をしている子どもたちの生活状況を目にし、滞在中に路上の子どもたちに物乞いをされたことに衝撃を受けました。帰国後は、フィリピンで自分が経験したことを、少しでも多くの方に共有したいと思い、「フィリピンの路上の子どもたち」と「紛争地イエメンの子どもたち」を応援する街頭募金を担当しました。この街頭募金は、10年以上毎月名古屋の街中でボランティアの皆さんと行っているもので、最近では、アイキャンの活動理念に賛同して下さっている企業様から、企業協賛として、街頭募金で頂いたご寄付と同額のご寄付を毎月お預かりしています。

私が街頭募金の担当となり最初の約半年間は、ボランティアの数があまり増えず、ボランティアの継続率も低く、そして募金額も低調な日々が続きました。しかしある日、人数が少なくても、ボランティアの皆さんが生き生きと活動してくださった時には、関心を持って足を止めてくださる歩行者の方が増えたり、募金額が人数に対して多く集まることに気が付きました。逆に、ボランティアの皆さんの人数が多くても、一体感があまりない日には、自然と募金額も低い傾向がありました。このころから、参加者が協力して、十分な力を発揮することが、関心を持ってくださる方を増やし、結果的に子どもたちのためになるということが分かりました。

そこで、街頭募金を行う上で、とにかく「ボランティアの皆さんに満足頂くこと」を第一に、街頭募金の募集案内の修正や活動時の雰囲気作り、初めて会うボランティア同士が馴染みやすい環境作り等に取り組みました。改革を始めてから、少しずつですが、友人を誘って一緒に活動に参加して下さる方や継続して活動に参加して下さる方が増え、また、初対面のボランティア同士が、その日の活動を終える頃には意気投合する様子が見られるようになり、改革の成果が表れてきました。その結果、街頭募金でお預かりする金額も増えていきました。



ある日のスケジュール

- 11:00 メールチェック
- 12:00 日本事務局でのミーティング
- 14:00 街頭募金報告書作成
- 16:00 次回の街頭募金の資料作成
- 17:00 メール送信
- 18:30 チャリティ語学教室に参加
- 20:00 帰宅

この1年間、様々な経験をしてきました。その中でも最も強く感じたことは、「人が持つ力」です。背景の異なる多くの人々が協力し、助け合った時の力の大きさを改めて実感させられました。インターンとしての活動は2月で任期満了となりますが、アイキャンの街頭募金活動を通して感じたこの思いを胸に、行動を続けていきます。

フィリピン事業（ミンダナオ島事業） 1月19日／ブキドノン（フィリピン）

先住民地域にて「水道システムの維持管理研修」を開催



綺麗な水を利用できないことや、地域住民の衛生概念が不十分なことが原因で、子どもたちが下痢や赤痢等に悩まされているミンダナオ島の先住民地域において、水源を綺麗に保ち、水道システムを維持管理していくための

組織を結成し、研修を実施しました。研修に参加した地域リーダーは、「研修で学んだ、水を清潔に保つことの啓発を地域でも行っていきたい。」と話しました。

講演・イベント・訪問受け入れ 1月30日／愛知

フィリピンの路上の子どもたちについて考える講演



愛知県の椙山女学園高等学校の2年生40名を対象に講演を行いました。自分がNGO職員であれば、どのような継続的な活動を行うかについてグループごとに話し合い、最後に提案してもらいました。生徒からは、「根本

的な解決につながる活動をしなければいけないと学んだ。」や、「医療活動や教育を通して、すべての人が安全な生活が送れるようにしたい。」等の意見が出ました。

ジブチ事業

1月／オボック（ジブチ）

「子どもの保護センター」完成



ジブチ北部にあるイエメン難民キャンプにおいて、「子どもの保護センター」が完成しました。センターは、難民の子どもへのカウンセリングや研修等を実施する場所として活用され、既存の「子どもの広場」とともに、キャンプ内の子ども

を保護する拠点として機能していきます。活動を連携する国際機関のスタッフからは、「今後カウンセリングを行う際に、プライバシーを確保できるのがありがたい。」との声が聞かれました。

ボランティア活動推進事業

1月26日／愛知

企業との協働で紙芝居を作成



中部電力グループのボランティア7名が、アイキャンを通じてフィリピンの路上の子どもたちに贈る環境教材とビデオレターを作りました。文字が苦手な子どもたちにも楽しんでもらえるように、カラフルな紙芝居に仕上げ、世界の環境問

題やSDGs（世界共通の目標）を伝えるオリジナルの紙芝居が完成しました。参加者からは「この活動を通して世界の課題を自分ごととして考える機会になりました。」との感想を頂きました。